

子どもの学ぶ心に火をつける ～大人の働きかけ方で子どもの学びは大きく変わる～

羽島郡二町教育委員会
教育長 野原弘康



「花鳥風月」、年齢を重ねることのよさなのでしょうか。この言葉を感性で味わえるようになってきた自分に気付きます。

出勤時のことですが、道端に「ヒメジョオン」の花(似た花にハルジオンがあります)が咲いていました。この花を見ると、いつも思い出すことがあります。それは、尊敬する先輩から伺った話で、その内容は次のようです。

小学校の教頭時代のこと、担任の先生が出張のため、代わりに授業に向かいました。気候もよかったことから、児童を連れて校庭の自然観察に出かけました。歩いていくと、いくつもの小さな白い花が咲いていたので足を止め、児童にこの花の名前を聞いてみました。全員が知らないとのことだったので、この花は「ヒメジョオン」というのだよと教えました。私は児童の豊かな反応を期待していましたが、それに反する反応に少し残念な気持ちになりました。

数日後のことです。他学級の先生が出張のため、同様に自然観察に出かけました。

前回の児童の反応から、今回は「この花に名前を付けよう」と投げかけたところ、子どもたちの目は一瞬にして輝きを増し、夢中になってその花の観察を始めました。見て、触れて、匂いをかいで…「色遣の小さなひまわりみたい」「太陽だ」などそれぞれの思い感じたことを発していました。…最終的には学級全員で「目玉焼き草」と名付けましたが、その後は「目玉焼き草」という言葉のオンパレードとなりました。教室に戻り、この花の名前「ヒメジョオン」を伝え授業を終えました。

翌日、数人の児童が職員室の私のところへやってきて、「家の前にも咲いていたよ。」「細かい花びらがいっぱいついてきたよ」「花の真ん中を触ると、黄色い粉がついちゃった」「シナっと柔らかくなっていただけ、水につけるといたらピシッとしてきたよ」など、命のふれあいを言葉にして伝えてくれました。

名前を覚えてもらうという「受動的」な学びを、名前を付けるという「能動的」な活動にしたことで、自分事として受け止め、広まりや深まりがある主体的な学びが生まれました。この事例は、大人(指導者・保護者・地域の方)の働きかけ方ひとつで、子どもはこんなにも変わるとことを教えてくれています。

大人は、子どもに対し「～しなさい」とストレートに言いがちです。もちろん、時や場、事によっては「使役」も必要です。しかし、こうした学びの場では、少し遠回りに思えるかもしれませんが、子どもの意思決定のもと、自ら考え、体験(五感)を通して答えを創出していくことや、その気付きや考えについて認め、ほめ、励まし、価値付けてやる大人の接し方は子どもの成長を促す大事な教育であると考えます。

変化が激しく先行き不透明な時代であり、新たな価値や答えを生み出す時代とも言われています。だからこそ、日常においてこうした思考を伴う学びを大人が意識することを大切にできるとよいと思っています。

ごみの処理は(株)野々村商店に!!
株式会社 野々村商店

一般廃棄物収集運搬業
(笠松町許可)

岐阜市則松2丁目157番地
TEL 058-239-9921

産業廃棄物収集運搬処理業

瑞穂市野田新田3977-1
TEL 058-327-4030



総合建設業

安藤建設株式会社

☎ 058-388-0077

📠 058-387-1515

住宅性能保証制度
登録店

お気軽に
お問い合わせ
ください。

